Jems News
No. 160
2026 年 11 月 5 日
日本環境変異原ゲノム学会
https://www.j-ems.org

＊＊＊＊＊　学会・シンポジウム開催のお知らせ　＊＊＊＊＊

「日本環境変異原ゲノム学会 第55回大会（東京）」のお知らせ

大会会長：戸塚 ゆ加里（星薬科大学）

日本環境変異原ゲノム学会第 55 回大会は，2026 年 11 月 14 日・15 日に星薬科大学（東京都品川区）にて開催致します．
本大会のテーマは「ゲノム科学で探る，環境要因と健康リスク」とし，環境要因によって誘発されるゲノム・エピゲノム変化と，それらが健康リスクへと結びつく分子機構について，基礎研究から応用研究，さらには規制科学に至るまで，分野横断的な議論の深化につながるようなシンポジウムを企画しました．また，近隣のアジア諸国は生活環境や生活様式に多くの共通点を有し，環境要因に起因する健康リスクについても共通する課題を抱えています．このような背景を踏まえ，日韓台合同シンポジウムを二つ企画しました．さらに，医療機器の遺伝毒性評価に関するシンポジウムも開催し，アカデミアのみならず企業からご参加の方々にも高い関心を持っていただけるものと思います．大会前日の 11 月 13 日には，同じく星薬科大学にてサテライトミーティング（QSAR ワークショップ）を開催いたします．詳細は大会 HP（https://www.jems2026.jp/）をご覧ください．

1.　日程
2026 年 11 月 14 日（土）～11 月 15 日（日）
（11 月 13 日（金）にサテライトミーティングを開催）

2.　会場
星薬科大学 〒142-8501 東京都品川区荏原 2-4-41（https://www.hoshi.ac.jp/）

3.　大会テーマ：「ゲノム科学で探る，環境要因と健康リスク」

4.　プログラム
11 月 14 日（土）
開会式　8：50～9：00

日本語シンポジウム 1　9：00～11：00　　座長：福田 隆之，本間 正充
「医療機器の遺伝毒性・発がん性評価を再考する ― 科学と規制の新たな接点 ―」
・「医療機器の遺伝毒性評価の最前線」
山本 栄一（国立医薬品食品衛生研究所）
・「生体由来材料・新規医療機器の安全性評価を考える― アカデミア・ユーザーの立場から ―」
岸田 晶夫（東洋大学 生体医工学研究センター/東京科学大学）
・「医療機器の遺伝毒性・発がん性評価を CRO の現場から問い直す―安研協アンケートから見えてきた実態，課題，そして将来像―」
福田 隆之（株式会社ボゾリサーチセンター）
・「医療機器の生物学的安全性評価における審査の考え方」
穴原 玲子（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）

一般口演 1（フラッシュトーク）　11：05～12：05　　座長：石井 雄二

「ポスター番号・偶数」

ランチョンセミナー　12：15～13：15

LS-1「DuplexSeq エラー補正シーケンシング技術による遺伝毒性評価」
（共催：株式会社ルナパス毒性病理研究所）
LS-2「ナノポアロングリードシークエンシングによるゲノム・エピゲノム解析」
（共催：株式会社ジーンベイ）

国際シンポジウム 1　13：30～15：10　　座長：青木 康展，Seo Young Rok

「Genomic and Epigenomic Alterations Induced by Environmental Pollutants」

・「Evaluation of Biological Effects of Diverse Micro- and Nanoplastics」
芳賀 優弥（大阪大学大学院薬学研究科）

・「Environmental Exposures and Cancer Risk: Evidence on Air Pollution, PFAS, and Dietary Chemicals from a Japanese Cohort Study」
澤田 典絵（国立がん研究センターがん対策研究所）

・「Metabolic Effects of Perfluorooctanesulfonic Acid Across Multiple Rat Organs: Insights from Nuclear Magnetic Resonance-Based Metabolomics and Mass Spectrometry-Based Lipidomics」
Lin Ching-Yu（National Taiwan University）

・「Integrated Analysis of Low-Dose Lung Cancer Screening Data and Environmental Pollution Data in Taoyuan City」
Chuang Kai-Jen（Taipei Medical University）

・「Extracellular Vesicles in the Respiratory System under Environmental Stressors」
Lee Heedoo（Taipei Medical University）

総会・授賞式　15：20～16：00

受賞講演　16：10～17：10　　座長：紙谷 浩之

ポスター発表　17：15～18：15　（偶数番号）

情報交換会　18：45～20：45
CITY HALL & GALLERY GOTANDA（https://gotanda-hall.jp/access.html）

11 月 15 日（日）
一般口演 2（フラッシュトーク）　8：45～9：45　　座長：川西 優喜

「ポスター番号・奇数」

特別講演　9：50～10：50　　座長：　戸塚 ゆ加里

「体細胞モザイクと発がん」
小川 誠司（京都大学大学院医学研究科）

ポスター発表　10：55～11：55　（奇数番号）

ランチョンセミナー　12：00～13：00

LS-3「Genotoxicity Assessment Using Agentic AI: Integrating Cheminformatics, QSAR, Read-Across and Expert Knowledge」
（共催：MultiCASE Inc.，インフォコム株式会社）
LS-4「ToxTracker：OECD TG 446A，規制上の活用と新たな展開」
（共催：Toxys B.V.）
LS-Y「高校生・大学生対象企画：キャリアパスセッション」
※高校生，大学生（高専生，大学院生含む）のみ参加可能です.

国際シンポジウム 2　13：10～15：10　　座長：　Kyung-Chul Choi，椙村 春彦

「Elucidation of Environmental Factors and Carcinogenesis Mechanisms through Genomic」

・「Genome Instability is Increased during DNA Replication in the Presence of CPD UV Photoproducts in Transcriptionally Active Genes」

吉岡 研一（国立がん研究センター研究所）

・「Genomic Mutations and Mutational Signatures in Rat Lung Tumors Induced by Environmental Carcinogens: Insights into Carcinogenic Mechanisms」

長谷川 晋也（星薬科大学）

・「Environmental Carcinogenesis and Driver Alterations in Gastric Cancer」

石川 俊平（東京大学大学院医学系研究科）

・「Toxicogenomic Strategies for Decoding Cancer Etiology: From Exposome to Precision Oncology」

Chen Huei-Wen（National Taiwan University）

・「Deciphering Carcinogenic Molecular Landscape through Multi-omics Integration under Permissive Environmental Factors」

Seo Young Rok（Dongguk University）

日本語シンポジウム 2　15：15～16：45　　座長：内村 有邦，服部 奈緒子

「環境エピゲノミクス研究の新展開：ゲノムと細胞記憶をつなぐ新たな視点」

・「環境要因によるエピゲノム変化と発がんへの影響」

服部 奈緒子（群馬大学生体調節研究所）

・「内在性 DNA 損傷に起因する多層的ゲノム情報制御機構の解明」

佐々 彰（千葉大学大学院理学研究院）

・「神経発達期メチル水銀曝露によるエピジェネティクス変化の解析」

栗田 尚佳（岐阜医療科学大学）

・「環境ストレスが刻むエンハンサー活性と細胞記憶の発生運命変容」

大塚 悟史（東京大学大学院医学系研究科）

・「ゲノム・エピゲノムの変化が，後世代の個体に及ぼす影響」

内村 有邦（放射線影響研究所）

閉会式　16：50～17：00

これまで東京では 17 回の大会が開催されており，2011 年以降の 4 大会は千代田区の学術総合センターを会場としてきました．本大会では，久しぶりに会場を移し，星薬科大学で開催いたします．

星薬科大学は，JR 品川駅や羽田空港からのアクセスも良好です．大会のメイン会場となる本館メインホールは，1924 年（大正 13 年）に竣工した歴史ある建造物で，著名な建築家アントニン・レーモンドによって設計され，日本建築学会により「近代日本の名建築」にも選定されています．

また，都心にありながら緑豊かなキャンパスが広がり，大会が開催される 11 月中旬には，銀杏並木も美しい黄金色に染まり，皆様をお迎えできることと思います．

第55回大会が，参加者の皆様にとって実り多く，心に残る大会となることを願っております．多くの皆様のご参加を，実行委員一同，心よりお待ち申し上げております．

変異原性 QSAR ワークショップ 2026 開催のお知らせ

変異原性 QSAR の現在地 －国際動向とエキスパート判断に向けた論点－

2026 年変異原性 QSAR ワークショップ（WS）は，日本環境変異原ゲノム学会（JEMS）第 55 回大会のサテライトミーティングとして，対面形式および後日のオンデマンド配信にて開催します．対面会場は，星薬科大学 ラーニングコモンズです．

サテライトミーティング 1 では，主要 QSAR ベンダーである MultiCASE 及び Lhasa から，各ソフトウェアの技術動向と予測モデルのアップデートをご紹介いただきます．また，ニトロソアミン類の評価に関する最新の対応についても取り上げます．

サテライトミーティング 2 では，OECD QSAR Assessment Framework や，第 9 回遺伝毒性試験国際ワークショップ（IWGT）における議論を踏まえ，QSAR 予測結果を科学的に解釈する際の考え方について議論します．具体的には，モデルの適用範囲，代謝やメカニズムに関するドメイン知識の活用，ならびにエキスパート判断に向けた課題を取り上げます．さらに，Leadscope（Instem）から，統計モデルの適用範囲を拡張する最新の取り組みをご紹介いただきます．

本 WS を通じて，変異原性 QSAR をめぐる国際動向を共有するとともに，国内における今後の活用と議論の深化につながる機会とすることを目指します.

プログラムは下記の通りです.

１．開催形式：第 55 回 JEMS 大会サテライト WS，対面および後日のオンデマンド配信
２．日時：11 月 13 日（金）9:00～12:30
３．場所：星薬科大学 ラーニングコモンズ　新星館 地下 1 階

- サテライトミーティング 1　予測モデルの最新動向とニトロソアミン評価への対応
  座長：小山 直己（中外製薬），橋本 清弘（武田薬品工業）

・ イントロダクション
  小山 直己（中外製薬）
・ Advancing Read-Across for Genotoxicity Assessment: From Structural Similarity to Mechanistic Relevance
  Dr. Suman Chakravarti（MultiCASE Inc.）
・ From Prediction to Regulatory Decision: Read-Across Strategies Across Mutagenic and Non-Mutagenic Impurities
  Dr. Christopher Barber（President, Lhasa Limited）
・ ニトロソアミン生成に関与する窒素酸化物を特定して最適な対策を講じるための検証実験
  三浦 健介（東和薬品）

- サテライトミーティング 2　国際的な QSAR 評価の動向とエキスパート判断に向けた論点
  座長：小山 直己（中外製薬），橋本 清弘（武田薬品工業）

・ 変異原性 QSAR をめぐる国際動向と IWGT での議論
  橋本 清弘（武田薬品工業）
・ OECD (Q)SAR Assessment Framework (QAF) に基づく in silico 評価について
  古濱 彩子（国立医薬品食品衛生研究所）
・ 代謝反応を考慮した Ames 変異原性 QSAR の科学的解釈支援
  今村 弥佳（富士フイルム）
・ Expanding the Applicability Domain of Leadscope's Bacterial Mutagenicity Statistical Model（ビデオ発表）
  Dr. Candice Johnson（Leadscope, Instem）

閉会あいさつ
橋本 清弘（武田薬品工業）

（文責：小山 直己）